



赤ちゃん先生

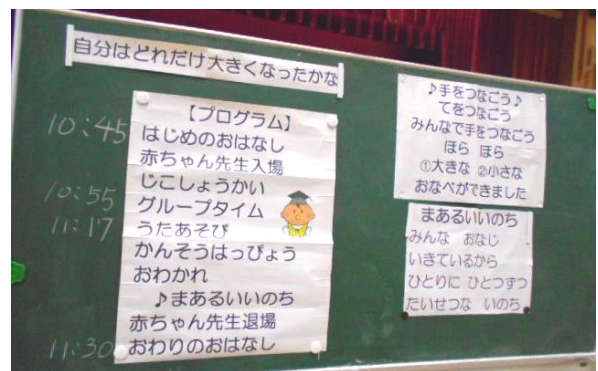


10月29日(火)、「NPO法人ママの働き方応援隊」の方のご協力で、赤ちゃんに触れ合う貴重な体験をしました。「どれだけ大きくなったかな?」をテーマに、赤ちゃんの手や足、背の大きさを比べたり、抱っこしたり、お母さんから赤ちゃんの一日の生活の様子やお世話の話を聞いたりしました。

3カ月の男の子、8カ月の男の子、9カ月の女の子、1歳3カ月の男の子の月年齢の違う4人の赤ちゃんに触れ合う中で、著しい成長の過程を目の当たりにし、自分の成長を感じているようでした。また、お母さんの話を聞く中で、自分もたくさんの人のお世話があったからこそ、ここまで大きくなれたのだということに気づき、改めて親や周りの人々への感謝の気持ちを抱いたようでした。



ようこそ赤ちゃん。4組の親子が石海小に来てくださりました。



～「赤ちゃん先生の授業」のプログラム～



4つのグループに分かれて、赤ちゃんとのふれあいがスタート。かわいい赤ちゃんの様子を見て、子どもたちは笑顔があらわれていました。



お母さんから赤ちゃんの様子を聞いたり、赤ちゃんと手や足の大きさ比べをしたりしながら、自分の成長と親の愛や苦勞を知りました。「赤ちゃんって最初歯が生えていないんだよ!」「3時間おきにおっぱい飲むんだって!」「おなかがすいたりおしめがぬれたり眠かったり…全部泣いて知らせるから、お世話する人は大変だなあ。」「ちょっとずついろいろなことができるようになるのだなあ。」など、1時間のふれあいを通して、様々なことを学びました。